

**Citation:** Cahill K, Perera R. Competitions and incentives for smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 3. Art. No.: CD004307. DOI: 10.1002/14651858.CD004307.pub3.

**CRG名:** Tobacco Addiction

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 28 April 2008

**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 3, Updated

**背景:** 禁煙を含む行動変容を強化するための試みとして、報奨物あるいは報奨金が用いられることがある。このような試みは、職場における禁煙プログラムで広く用いられてきたし、より小さい規模の地域プログラムでも用いられてきた。「禁煙と褒美」コンテストが、もう一方のレビューの主題である。

**目的:** コンテストと報奨によって、長期間の禁煙成功率がより高くなるかどうかを検証する。私たちは、また、報奨と参加割合の関係の調査に着手した。

**検索戦略:** Cochrane Tobacco Addiction Group Specialized Registerに加え、MEDLINE、EMBASE、CINAHL、PsycINFOを検索した。検索語には、incentive\*, competition\*, contest\*, reward\*, prize\*, contingent payment\*, deposit contract\*を含めた。最終検索は2007年12月。

**選択基準:** 個人、職場、職場内でのグループ、あるいは特定集団を、実験群と対象群とに振り分けたランダム化比較試験を選んだ。また、介入の前と後の評価値がある比較試験も選択した。

**データ収集と分析:** データは1人の著者が抽出し、もう1人の著者がチェックした。私たちは、必要な追加のデータについて研究論文の著者に尋ねた。主なアウトカム指標は、介入開始後少なくとも6か月間の禁煙とした。私たちは、それぞれの試験において、禁煙の最も厳格な定義を使用し、利用できるときには生化学的に裏付けられた禁煙成功率を使用した。可能な場合は、一般化逆分散モデルを用いたメタアナリシスを行なったが、その際、複数のサブグループにまたがってデータをプールするのではなく、各時期のエンドポイントによってグループ化されたデータを用いた。

**主な結果:** 17の試験が私たちの選択基準に合致した。6か月間以上の検討では、報奨群が対照群に比べて禁煙成功率が有意に高い、という報告は1つもなかった。自分自身のお金を禁煙プログラムに委ねた参加者が、そうしなかった参加者に比べて禁煙成功率が高まるというエビデンスは明らかではなく、様々な種類の報奨の中で、どれが効果が高く、どれが低いというエビデンスも明確ではなかった。禁煙成功率には有意差は示されていないが、参加に報酬が付くことによって募集割合が向上するため、禁煙成功者の絶対数は増加することが期待される。このレビューでは介入の有効性は示されていないため、費用効果分析を行うことは適切ではない。

**レビューアの結論:** 報奨と競争には、長期の禁煙成功率を向上させる効果は認められず、初期の成功は、報酬が提供されなくなった時から散逸する傾向がみられた。コンテストや禁煙プログラムへの参加や協力を報酬が付くことは、禁煙成功者の絶対数をもっと増やす潜在力がある。

(翻訳 加治正行・監訳 埴岡 隆;JCOHR)

翻訳公開日: 2010年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。